

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	福井支部	(2) 記載者氏名:	大和 康郎	会員番号:	13872	事務局整理記入欄	福井 - 35
分水嶺区分	美濃平家岳 ~ P1419 (W088とW087の間)		(3) 山行日:	2006年	6月	7~18日	(4) 天候 晴~曇~小雨~曇

(5) 参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

宮本 数男	10622	山本 以久子	12260	田路 繁男	13086		
山縣 喜美子	11087	宮前 庄三	12487	牧田 正弘	13784		
船田 洋子	11095	野路 哲治	12627	大和 康郎	13872		
小林 順子	12212	江田 晃	12683	川口 宗	13904		
				計	12名	計	名

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	登路は福井-29と同様に面谷の送電線巡視路を通り美濃平家に到達、滝波山方面へ約500m進んだP1419で引き返す												
アプローチ:	福井市の土木事務所に集合し、4台の車に同乗してR158で大野市の旧泉村の箱ヶ瀬橋を渡り林道を通って面谷川林道を登山口まで行く。送電線巡視路を通って美濃平家岳まで行く。												
地点コード	地点名	2.5万分の1地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着時刻	出発時刻	道の状況	(8)~(11)の特記事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	駐車場	平家岳	136	44	12.23	35	49	59.83	746.9		10:10		
分水嶺到達点	美濃平家岳	平家岳	136	44	26.83	35	48	3.74	1,451.7	14:18	14:28	A-2	
		P1419	平家岳	136	44	39.98	35	48	12.40	1,418.8	15:17	15:21	B-3
(美濃平家岳より約500m点、ここから吹き返す)													
分水嶺離別点	美濃平家岳	平家岳	136	44	26.83	35	48	3.74	1,451.7	16:00	16:00	B-3	
宿泊地	電源開発kk小屋	平家岳	136	43	46.15	35	48	24.56	1,226.5	16:44		A-2	
		平家岳	136	43	46.15	35	48	24.56	1,226.5		8:00		
歩行終了点	駐車場	平家岳	136	44	12.23	35	49	59.83	746.9	11:37		A-2	
												総歩行時間(休憩時間を除く):	8時間54分

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを記入してください	点名	等級	方位	保存状況	特記事項
	美濃平家岳				国土地理院の三角点はないが、林務局三角点が一段高い所にあった。(福井-29では見つけられなかった。)

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

美濃平家手前約100m付近で巡視路が南方尾根に南下している。美濃平家直前100m程が昨年に比べてかなり藪が刈払われていた。又、赤色の梱包用テープが所々張られており、今年の間近かな時期に登ってきている人が居る。
美濃平家頂上には数の刈り払いに導かれた所に広場があり、美濃平家岳 1450mの木製標識が樹木に掛かっている。
美濃平家上は平坦で濃密な樹木・藪で全面覆われている。分水嶺方面に移動中少し高い所に四角柱の林務局三角点があった。(ここが最高点と思われる。)
福井県九頭竜ダムの電源開発kk長野発電所から中京方面に送電する為に県境稜線を越えて送電線が敷設されている。3本の送電線を維持する為に2基の鉄塔が敷設され、1基の鉄塔に水平方向に2本・他の1基に1本の送電線が敷設され贅沢な設備だなどと考えながら登ってきた。この付近は豪雪地帯でかつ強風が吹く為、1基の鉄塔では雪と強風で送電線が上下に揺れ送電線接触事故が発生した。その為、鉄塔1基 2基に増設し上下に振れても接触しない様にしたとの事である。
巡視路の登山道は所々に色テープが結わえてあった。又、伊勢分岐の所で伊勢方面には色テープで閉鎖表示されていた。

(9) 水および植生に関連した特記事項

稜線付近の送電線下部の樹木が刈払われていた。これは送電線との距離が短い為か?
美濃平家から滝波山方面の分水嶺は濃密な笹・樹木が背丈以上に生えており、磁石を持って方位を定めて歩かないと迷える。所々に生えている桧に登り確認して進んだ。又、稜線が痩せておらず広いので完全な分水嶺上を歩くのは難しかった。
先頭が磁石を持ち、GPS所持者は後方から続き設定ルートを大きく外していない事を確認しながら、手探りの進行となった。藪の中で時計を落とす者、虫に噛まれ大きく腫れる者等被害続出であった。

(10) その他の特記事項

福井-29の報告書で井岸山南峰~美濃平家を踏破終了している。福井-32の報告書で油坂 滝波山 美濃平家へ踏破を行ったが、美濃平家手前約1.7kmにて時間切れになったので、この約1.7km間を踏破すべく山行計画を立てた。今回山行を分水嶺踏破打上げと称して支部員多数の参加を呼びかけて12名の参加を得た。登路は福井-29と同様に面谷の送電線巡視路を通り美濃平家に到達する。美濃平家より滝波山方面に進むも背丈より高い濃密な藪に入り込み約500m先のP1419で時間切れとなり、同じ時間を使って美濃平家まで戻った。17日の夜は川口支部員のツテを頼って分水嶺上に有る電源開発kk殿の作業小屋を開放して戴いており、さらに女性陣の大奮闘の料理で福井支部分水嶺踏破完了打上げが盛大に行うことが出来た。
--

(11) 写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:
美濃平家岳 P1419(約500m)のGPS軌跡「カシ米尔ソフトを使用」

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。

